

安国論副状

文永五年 四七歳

未だ見参げんざんに入らずと雖も、事に触ふれ書を奉るは常の習ひに候か。

抑そもそも 正嘉元年本歲八月二十三日戌亥いぬいの刻の大地震、日蓮諸経を引いて之を勘ふるに、念仏宗と禅宗等と御歸依有るの故に、日本国中の守護の諸大善神いか恚りに依って起こす所の災ひなり。若し御対治無くんば他国の為に此の国を破らるべき悪瑞かんもんの由、勘文一通之を撰して立正安国論と号し、正元二年本歲七月十六日宿屋入道に付けて、故最明寺入道殿に之を進覽せしむ。